

Fertilization Basics

施肥の基礎知識

植物に適した時期や量を覚えよう！



肥料をあげるタイミングは？

寒肥 (1~2月)

植物の基礎体力を維持するために冬の間ゆっくり土の中で分解する肥料を与え、春~夏にかけて根に吸収させる肥料のこと。植物を植えた時に行うことを元肥(もとこえ)と言い、寒肥用に市販されている肥料を用法・用量にしたがって撒いてください。

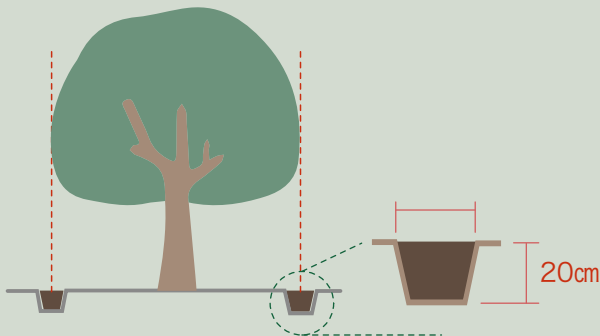
追肥 (3月・6月)

樹木の活力維持のために年2回程与えます。市販されている追肥用の肥料を使います。

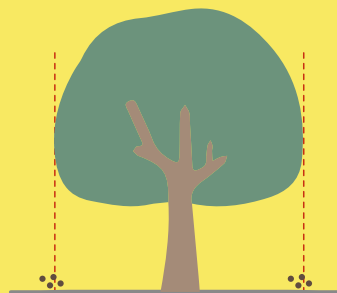
お礼肥 (花や実の落ちた時期)

花や実が落ちた木の活力補充のために施します。追肥用の肥料と同じものでOKです。

高・中木は、葉の先端の下部が施肥のポイントになります。幹を中心に円状の溝を掘って土と混ぜた肥料を埋め戻すか、その部分の表土とよく混ぜて馴染ませます。低木や植込みは根元周囲の土と馴染ませます。



高・中木は、葉の先端の下部あたり(撒けないときは幹の周り)にばら撒きます。低木や植込みは根元周囲にばら撒きます。追肥用の(使いやすい)粒状肥料を用法・用量に従って撒いてください。



肥料についての注意点

肥料は、あげる量が多いほど植物が元気に育つというわけではありません。
一度に多く与えすぎると植物に悪影響を与える場合があるので、指示量を大幅に超えないよう注意！

植物は肥料を固形のまま摂取できません。肥料の栄養成分が水に溶け出し、根がそれを吸収することで初めて体内に栄養を取り込むことができます。このため、肥料をあげた後には必ず水やりをしましょう。
このとき、水圧を強くしすぎると肥料によっては飛び散ってしまうので注意が必要です。
その後の水やりは、土の乾燥状態に応じて行ういつもの水やりや、雨が降る場合は必要ありません。